

9-7ダクト発生 オープン情報

2007年 5月12日 JG0TEV 中村

5月12日のダクト発生域 (推定)



ダクト発生による9～7エリア間オープンが確認されました。
15:16 長岡市GPより9エリア富山県氷見レピータ RS57(JG0TEV新潟県長岡市)
17:30 長岡市GPより9エリア富山県氷見レピータ RS53(JG0TEV新潟県長岡市)
17:48 JG0TEV(新潟県長岡市(GP))-J071ZC(秋田県にかほ市) RS41-55

気象解析

5月12日に行った解析結果と気象資料は以下の通りです。

[5月11日の実況・解析結果・考察]

気圧の谷が東日本、北日本を通過。湿潤域、正渦度領域に覆われている。
東日本を中心に強風となり被害も発生した。
西日本は高気圧圏内となっていて、リッジに伴う高度の上昇、乾燥空気の流れ込み、負渦度領域。
新潟県内は終日曇りの天気で推移。肌寒さを感じた。
東日本や北日本を中心に、湿潤域、正渦度領域に覆われたことでダクト発生条件がそろわなかったと考える。

[5月12日の実況・解析結果・考察]

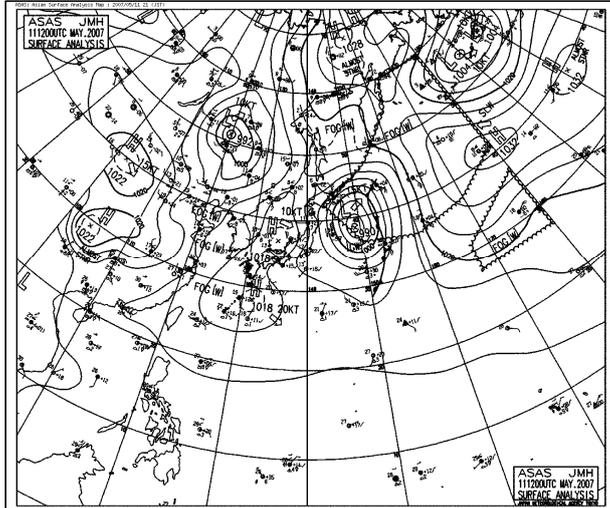
南海上から高気圧に覆われて日中は広い範囲で晴れた。
上空は負渦度領域に覆われて乾燥空気にも覆われた。
日本海西部に低気圧、九州付近に前線があって西日本を気圧の谷が通過中。
新潟県内は終日曇りの天気で推移。
日本を中心に負渦度領域、乾燥空気に覆われたことから日中いっぱい高気圧の勢力が残ったと考えられる。
このためダクトが形成されたものではないかと考える。
ちょっとした条件でダクトが形成されやすい状態になっていたのではないかと推定する。

総括すると

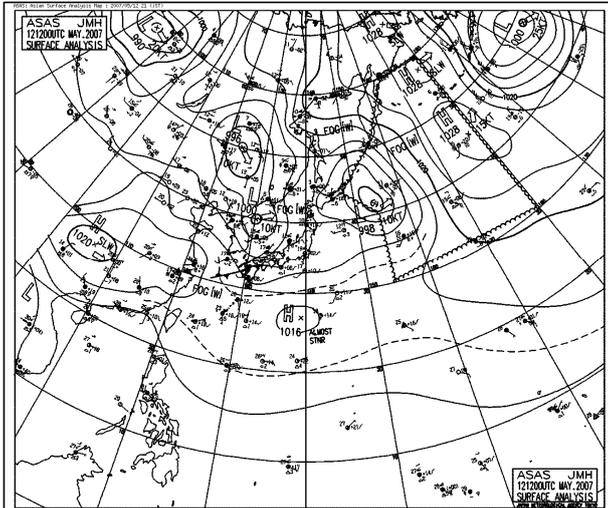
11日から12日にかけて移動性高気圧が本州付近を通過した
高気圧の前面には寒気を伴っていたため11日はダクト発生条件がそろいにくかった
寒気が抜けた12日は負渦度領域におおわれたこと、乾燥空気に覆われて11日に比べると気温も上昇した
12日に見られる上昇流域は低気圧性の上昇流よりも空気が温まることによる膨張による影響が考えられること
などから、ダクト発生条件がそろいやすい環境であったものと推定します。

地上天気図

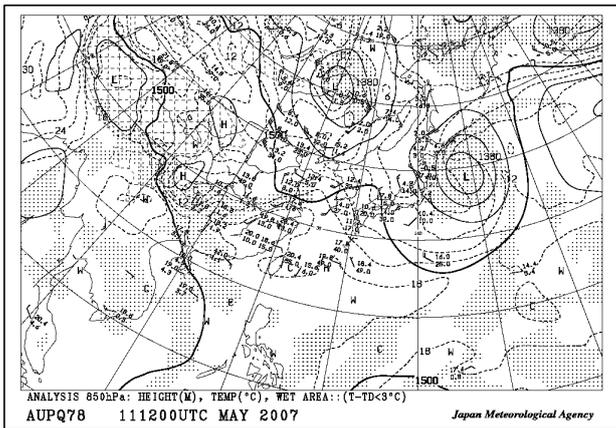
11日21時



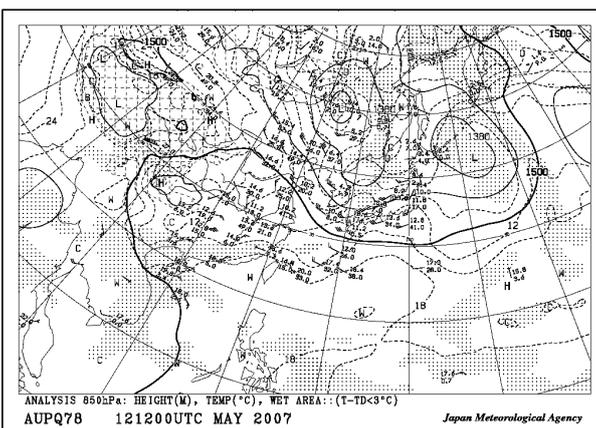
12日21時



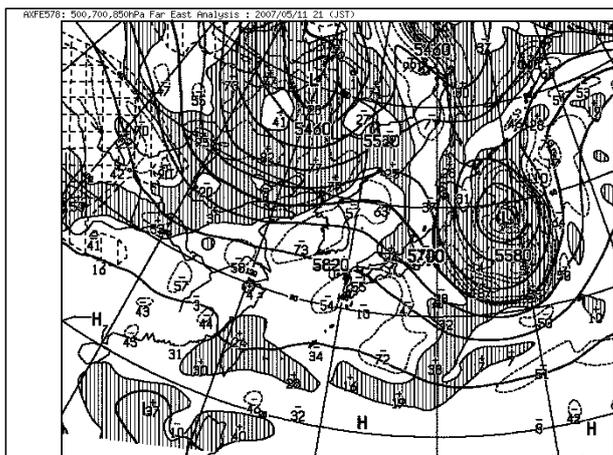
850hpa面高度・気温・湿数
11日21時



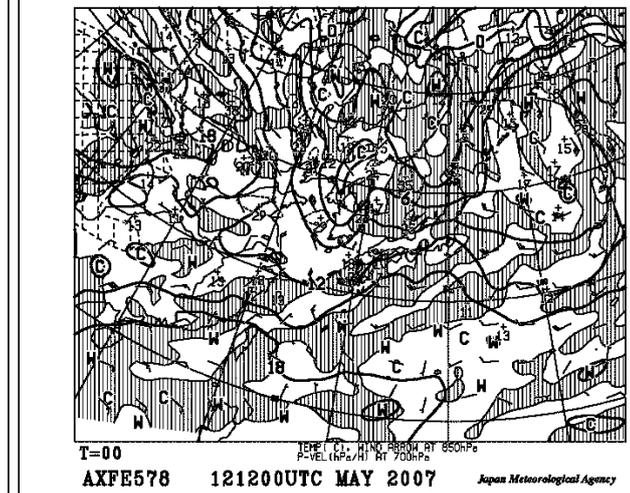
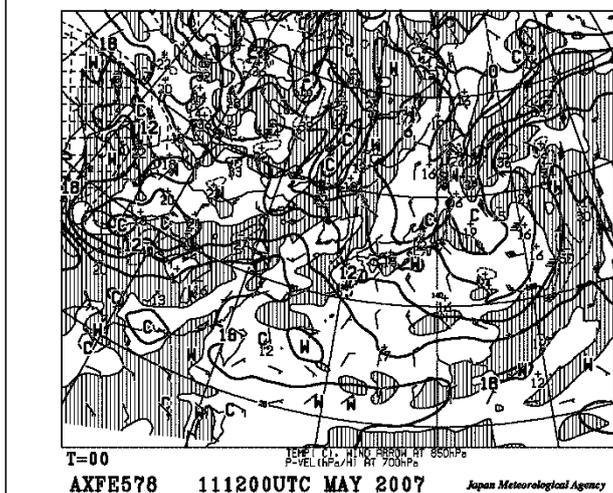
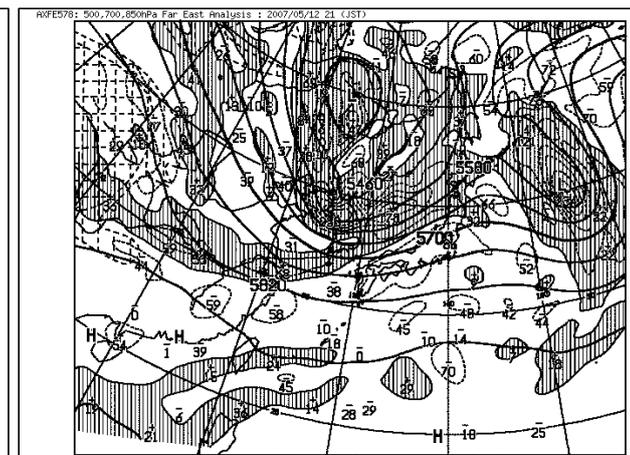
12日21時



500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
11日21時



12日21時



赤外線雲画像
11日21時



12日21時

